

大阪マンデーベースボールリーグ 大会要項

☆総則

- (1)この大会は当リーグの名称通り、リーグ戦を基本として開催する。
- (2)この大会は前半戦を「予選リーグ」後半戦を「準決勝リーグ」または「順位決定リーグ」にわけ、その後プレーオフ、決定戦などを経て年間の順位を競うものとする。
- (3)予選リーグの消化予定試合数は概ね10以上19以下となるよう調整する。
- (4)準決勝・順位決定の両リーグと予選リーグの消化予定試合数の合計は概ね20以上25以下となるよう調整する。
- (5)個人記録に関わる消化予定試合数の差は各チームごとに最大でも3試合以内とする。
- (6)この大会は上記リーグ戦以外にもトーナメント大会、近畿統一リーグ戦などを開催することもある。

☆予選リーグ

- (1)総当りのリーグ戦とする。
 - ※参加チーム数によりリーグを分割することがある
 - 参考：特記事項①・リーグの分割
 - 参考：特記事項②・参加チーム数による開催方法
- (2)優勝チームには準決勝リーグ出場の際に規定のアドバンテージが与えられる。
 - ※準決勝リーグを全勝するために必要な勝点の1/4(小数点以下切り捨て)が与えられる。
 - ※予選リーグが2分割以上で開催された場合も同様のアドバンテージをそれぞれに与える。
- (3)順位は以下に示す勝ち点方式で行い、勝ち点の多い順で決定する。
 - ※勝ち点方式 ー 勝ち3点・抽選勝ち2点・抽選負け1点・負け0点
 - 参考：特記事項③・勝ち点が同点の場合
- (4)正規回数は7回とし90分を過ぎて新しいイニングに入らない。延長戦は行わない。
 - ※得点差によるコールドゲームは5回以降、7点差とする。
 - 参考：特記事項④・試合時間
- (5)引き分けの時は抽選によって勝敗を決定する。
 - ※最終守備位置でジャンケン
 - ※抽選(ジャンケン)が行われなかった場合は両チームに勝点1とし、後日抽選は行わない。
- (6)雨天コールドゲームの試合成立は5回とする。
- (7)試合開始時間に選手が足りない場合、試合中に怪我や疾病などで選手が足りなくなった場合は不戦敗とする。
 - ※以降は選手を補充して練習試合を行い、個人記録はすべて公式記録とする。
 - ※試合続行が困難な場合は打ち切ってもよいがそこまでの記録は公式記録とする。
- (8)審判員・記録員は本部の指示に従う。
- (9)個人成績を採用する試合での補充選手は原則としてバッテリー以外とする。

☆準決勝リーグ

- (1)予選リーグ上位チームのうち定められたチーム数で行う。
- (2)予選リーグ(1)、(3)～(9)を適用する。

☆順位決定リーグ

- (1)予選リーグ下位で準決勝リーグに出場しない全チームで行う。
- (2)予選リーグ(1)、(3)～(9)を適用する。

大阪マンデーベースボールリーグ 大会要項

☆5位決定戦進出チーム決定戦(プレーオフ)

- (1) 準決勝リーグ下位のチーム(6位以下)と順位決定リーグ上位のチームで試合を行う。
※出場できるチーム数は開幕前に申し合わせる。
- (2) 試合(大会)方式はトーナメントで行う。
- (3) 予選リーグ(4)～(8)を適用して行う。
- (4) 最終の決定戦のみ本部からの指示で試合方式を変更する場合もある。(試合時間やコールドの有無など)

☆年度5位決定戦

- (1) 準決勝リーグ5位のチームとプレーオフの勝者で行う。
- (2) 正規回数は7回とする延長戦は時間限度まで行いタイブレーク方式を適用する。
参考：特記事項⑤・タイブレーク方式
- (3) 審判員は本部からの指名によって行う。
- (4) 雨天コールドゲームは5回で試合成立とする。
- (5) 当日の予定に準じ、時間限度を過ぎた場合は規定回以前で打ち切る場合もある。
- (6) 5回以降7点差でコールドゲームとする。
- (7) 試合日程は原則として優勝決定戦当日第1試合とする。
- (8) 準決勝リーグ5位のチームを1塁側ベンチとする。

☆年度3位決定戦

- (1) 準決勝リーグ3位と4位のチームで行う。
- (2) 年度5位決定戦の(2)～(6)を適用して行う。
- (3) 試合日程は原則として優勝決定戦当日第2試合とする。
- (4) 準決勝リーグ3位のチームを1塁側ベンチとする。

☆年度優勝決定戦

- (1) 準決勝リーグ1位と2位のチームで行う。
- (2) 正規回数は9回とする、延長戦は必要に応じてタイブレーク方式を適用する。
参考：特記事項⑤・タイブレーク方式
- (3) 審判員は本部からの指名によって行う。
- (4) 雨天コールドゲームは7回で試合成立とする。
- (5) 当日の予定に準じ、時間限度を過ぎた場合は規定回以前で打ち切る場合もある。
- (6) コールドゲームは設けない。
- (7) 試合日程は当日第3試合とする。
- (8) 準決勝リーグ1位チームを1塁側ベンチとする。

大阪マナーベースボールリーグ 大会要項

☆表彰規定

(1) チーム表彰 ※メダルのは数は登録選手数に関わらず14個とする

・優勝チーム

OMBL、大阪府知事、日本経済新聞、ダイワマルエス(株)、審判長より賞状、トロフィ、金メダルなどが授与される。

・準優勝チーム

OMBL、大阪府知事、審判長より賞状、準優勝杯、銀メダルなどが授与される。

・第三位チーム

OMBL、審判長より賞状、第三位盾、銅メダルなどが授与される。

・予選リーグ優勝チーム

OMBLより優勝カップ、賞状が授与される。

(2) 個人表彰

・リーグ戦における、首位打者・ホームラン王・打点王・盗塁王・最多勝利投手・奪三振王。

・年度末の優勝、三位、五位決定戦におけるMVP1名、敢闘賞1名、優秀選手賞4名。

・リーグレコード賞。

(3) 特別表彰

・特に優秀な成績を残した選手。または野球以外でもリーグに貢献した選手。

(例・完全試合、サイクル安打等または人命救助など表彰に値する行為)

☆記録

(1) 打撃、投手成績は試合ごとの記録表に基づいて集計する。

(2) 打点など判断の難しい判定はすべて記録員に委ねる。

(3) 先発投手の権利は4回とする。7回に満たない試合の場合は行われたイニングの過半数とする。

※イニング単位で切り上げる。(例)5回で終了した場合 $5 \div 2 \approx 3$ イニング

(4) 棄権試合の場合、記録集計の試合を行う場合があり、例えばチームは勝利でも投手は敗戦の場合がある。

(5) 記録を集計するための試合に助っ人として入った選手の成績は一切記録しない。

(6) 個人成績は予選リーグ、準決勝リーグ、順位決定リーグの記録を集計する。

(7) 原則として首位打者と奪三振以外の受賞者は1名とする。

※ホームラン、打点、盗塁の各部門は打席数の少ない者を上位とし、打席数が同じ場合は複数名受賞とする。

※投手の最多勝は敗戦の少ない者を上位とし、敗戦数が同じ場合は複数名受賞とする。

※規定打席は「試合数×2」とする。(☆棄権試合の(3)(4)を参照)

☆棄権試合

(1) 人数が揃わず棄権試合となった場合は選手を補充して練習試合を行う、場合によっては行わない時もある。

(2) 試合を行わない場合でも、審判代などの費用が発生した場合は原因となったチームが全額払うものとする。

(3) 規定打席を計算する場合、棄権試合の原因となったチームは該当する試合数を減らさずに計算する。

(4) 規定打席を計算する場合、棄権試合の責が無いチームには該当する試合数を減らして計算する。

(5) 前日までに棄権を表明したチームは試合当日の天候により開催出来たと判断した場合のみ棄権試合となる。

大阪マンデーベースボールリーグ 大会要項

☆繰り上げ

(1)各大会において出場資格チームが試合を棄権する場合、大会を円滑に運営する為下位チームより順位の繰り上げを行う場合がある。

※1度繰り上げた場合は元には戻さないことを原則とする、その場合の判断は本部の裁量で決定する。

☆リーグ戦、プレーオフ等の中止

(1)準決勝リーグなどの各大会が天候、災害を理由に開催続行が困難な場合はそれ以前の成績で合理的に順位を確定する。中止となった残りの試合を開催しなくても順位が確定する場合はそちらを優先し、順位が確定できない場合は予選リーグの順位を優先する。

(2)近畿統一リーグ決勝戦は年度優勝が確定していない場合予選リーグ優勝チームに優先出場権を与える。

※予選リーグを2分割以上した場合は「特記事項③・勝ち点が同点の場合」のdを参照する。

☆スポニチ杯 トーナメント大会

(1)予選リーグ(4)～(8)を適用して行う。(決勝戦のみこの限りではない)

(2)大会方式はトーナメント方式の勝ち抜き制とする。

(3)参加資格は当リーグ加盟、非加盟を問わない。

(4)大会参加費用は当リーグ加盟チームは無料とする。

(5)審判代は各チームとリーグで負担するが試合球はリーグより支給する。

(6)大会要項や開催の有無はリーグ戦の進行を考慮しその年の6月頃決定し発表する。

(7)表彰は優勝チーム及び決勝戦におけるMVP・敢闘賞各1名とする。

☆近畿統一リーグ

(1)当リーグと兵庫県の神戸スパイリリーグの主催、ダイワマルエス(株)様の後援により11月に行う。

(2)両リーグの年度優勝チーム同士の対戦(決勝戦)と両リーグ選抜チーム同士の対戦(選抜戦)の2試合を行う。

(2)大会の詳細はその年の9月頃発表する。

(3)表彰は「決勝戦」優勝チーム賞、MVP、優秀選手賞2名 「選抜戦」MVP、優秀選手賞4名とする。

☆臨時代走

(1)臨時代走は打順の1番遠い選手で、バッテリーは除いても良い。(出てもよい)

基本的に死球等原因があきらかな事例にのみ適用する。不正防止のため単独での捻挫や腹痛などは認めず、通常の代走とするが状況によっては審判員と記録員の判断に委ねる。

☆その他

(1)大会要項、大会規則、試合運営規定などを参照しても補えない事案が発生した場合でそれについて議論する余裕がない場合などはとりあえず本部の判断を絶対とし、必要があればその後あらためて議論する。

一部改正 平成21年1月